

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

平成 29年 4月 17日

京都府知事 様



提出者

住 所 京都府久世郡久御山町大橋辺16番地10

氏 名 株式会社 日本医学臨床検査研究所

代表取締役 新井 孝志

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

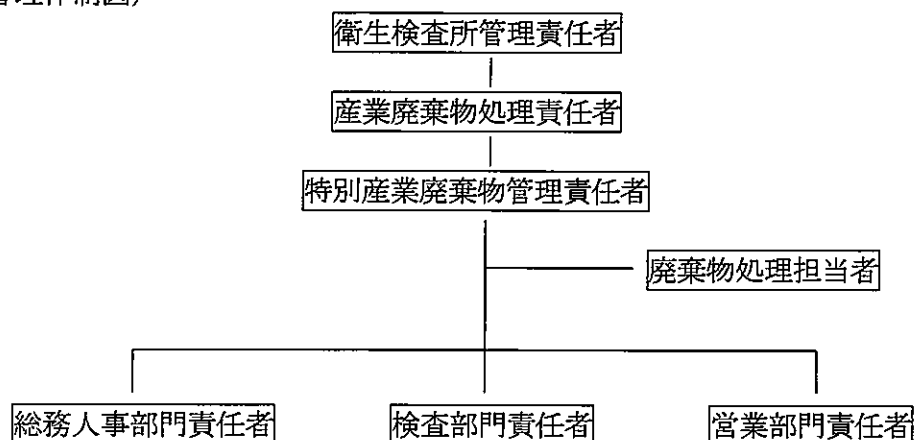
電話番号 075-631-6185

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 日本医学臨床検査研究所
事業場の所在地	京都府久世郡久御山町大橋辺16-10
計画期間	平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	受託臨床検査業
②事業の規模	検査検体数 600万ID/年
③従業員数	197名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	前年と同様

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（平成 28 年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	感染性廃棄物（培地）	引火性廃油
	排 出 量	182.45 t	3.58 t	2.42 t
	（これまでに実施した取組） 自社処理（企業内）での処理（オートクレーブによる滅菌）を増やし、外部委託量を減少させる。			
②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	感染性廃棄物（培地）	引火性廃油
	排 出 量	160.00 t	7.00 t	0.70 t
	（今後実施する予定の取組） 自社処理、中間処理のできる範囲を更に検討する。			

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 分別内容（種類）を再確認し、特別管理産業廃棄物扱いとしていた廃油（ホルマリン）を廃酸での処理とする事が可能であった為、更に特別管理産業廃棄物を産業廃棄物として処理できる物の再確認を行なう。
②計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 種類を確認し、感染性廃棄物の中でも中間処理を行う事により、感染性でなくなる物を分別処理するなどを検討し、更に特別管理産業廃棄物を減少させていきたい。

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（平成 28 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 実施なし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 予定なし		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（平成 28 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物（培地）	
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 滅菌処理をしているが、減量はしていない		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物（培地）	
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 滅菌処理をするが、減量の予定はない		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

① 現状	【前年度（平成 28 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 実施なし		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 予定なし		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（平成 28 年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	滅菌処理後 感染性廃棄物（培地）	引火性廃油
	全処理委託量	182.45 t	3.58 t	2.42 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	182.45 t	3.58 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 優良認定業者であるかの確認を行なった。 結果として平成23年4月より優良認定を獲得した業者である事が判明している。			

②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	滅菌処理後 感染性廃棄物 (培地)	引火性廃油
	全処理委託量	160.00 t	7.00 t	0.70 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	160.00 t	7.00 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>優良認定、再生利用、認定熱回収等の業者の対応・認定の状況を把握して、認定業者への委託をしていきたい。</p>			
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。